

「卒業する人々に」
櫻の花ちりぐにしも
わかれ行く 遠きひとり
と 君もなりなむ
『春のことぶれ』
釈 道空

国学院大学 令和8年3月20日(金・祝) 定期号(毎月20日発行) 1部20円
[発行]国学院大学 [編集]総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目10-28 [電話]03(5466)0130 [FAX]03(5466)0528

祭儀 ■ 入学奉告祭 4月1日(水) 午前10時 神殿



培った学びを 明日を開く力に

国学院大学では、令和7年度(134期生)に大学院で99人(博士前期課程96人、博士後期課程3人)が修了を迎え、17人が所定単位修得退学となった。令和7年度に完成年度を迎えた観光まちづくり学部をはじめ6学部では2565人(文学部751人、経済学部548人、法学部464人、神道文化学部200人、人間開発学部346人、観光まちづくり学部256人)9月卒業生を含む)、専攻科では20人、別科では4人の合計2705人が学びを修め、それぞれの未来へ向かい本学を旅立った(人数は3月11日時点)。

大学院学位記授与式は3月21日、渋谷キャンパス常磐松ホールで行われ、学部と専攻科・別科の卒業式は同22日にグラウンドプリンスホテル新高輪「飛天」(東京都港区)で挙行された。卒業証書、学位記、修了証書の各授与式は渋谷キャンパス・たまプラーザキャンパスでそれぞれ行われた。卒業生たちは、恩師や友人らと集い、思い出話などに花を咲かせ、学び舎を後にした。

針本正行学長はじめ機関長らが旅立ちを祝して「はなむけの言葉」を贈り、134期生の大いなる活躍に期待の念を込めた。

一方、3月末で定年退職を迎える教員は11人。本学キャンパスでの思い出を振り返り、「惜別の言葉」を寄せた。

煌めく未来を心から言祝ぐ

学長 針本 正行



卒業おめでとうございます。皆さんが、所定の課程を修めて、それぞれ選び取った道で、煌めく未来を創造されることを心から言祝ぎいたします。

近年、AIの急速な進化により、人工知能やロボットに代替されない働き方が求められるとともに、AIに係る職が新たに創出されると予測されています。このような社会変革期にあって、皆さんは、心の内にあたたためてきた夢の実現を目指す中で、これまでの世界観、人間観、職

業観を問い直し、自らの能力、資質を発揮できる進路、職業は何かと、心を砕いてきたことでしょう。

大学の学びでも、日々、進化するAI環境に応じた新たな学びのあり方が提起され、それぞれの学修分野での利活用を模索したことを思量します。また、多様な価値観を持った学友と、演習やグループ学習などを通して議論をし、時には、自分の意見が理解されなかった経験もあったことでしょう。しかし、「論語」に「人知らずして、いからず」とあるように、同じ学びを志す友人からの批判は、自身の思考を深める契機となる有意義な経験です。

今後、社会がどのように変化したとしても、学友と切磋琢磨した中で紡ぎ出された「知」の蓄積は、皆さんがこれから進む新たな世界へ飛翔する際のかけがえのない力となるものです。学友と学び合うなかで醸成された力をもとに、煌めく未来の道を切り拓かれることを期待します。

みはるかすもの

『葬送のフリーレン』というアニメがある。これは、冒険の「終わり」から始まる物語である。勇者一行の旅が終わった後、長命の魔法使いは、時間の重みを受け止めながら、失ったものの意味を探し直していく。その静かな歩みは、学年や立場を問わず節目に立つ私たちを映す鏡である▼この物語が教えるのは、過去を大切にしながらも、今を生きる姿勢である。楽しかった日々や後悔の残る選択は、消し去るものではない。思い出は次の一歩を考える材料となり、迷いの中でも進む方向を照らす。振り返りつつ、立ち止まりすぎないことが肝要である▼仲間を大切にする姿も心に残る。価値

観や考え方の違いに戸惑いながらも、相手を知ろうとする姿勢が関係を育てる。大学で出会った友人や先輩、後輩たちは、離れても互いの背中を押す存在となる。連絡一本、ひと言の労いが、その絆を保つ▼さらに、この物語は今を楽しみむことの意味を静かに伝える。成果や将来ばかりを追い求めると、足元の喜びは見えなくなる。寄り道で見た景色、短い会話、昼休みの笑い。小さな出来事を味わう余裕が、忙しさの中で心をしなやかに保つ力となる▼未知への挑戦も描かれている。経験の有無に関係なく、踏み出す意志が道を開く。進級の不安も、卒業後の不確かさも、学び続ける姿勢が受け止めてくれる。過去を抱え、今を受け止め、前へ進む。その積み重ねが、それぞれの旅路を、実りあるものへと変えていくのである。



卒業おめでとう

はなむけの言葉

問題を解決する力

大学院委員長 佐藤 長門



国学院大学大学院博士前期課程修了者96名、後期課程所定単位修得者17名、博士号取得者3名のみなさん、おめでとうございます。

この国民の判断は、如上の変化を敏感に察知したものであったようにも思えます。

これからみなさんが巣立っていく世界は、何もなくても平和裏に過ごせた時代とは違って行くのかもかもしれません。しかし、みなさんは多くの人のために2年、あるいは5年以上、長く「学問」を続けてきました。その成果は、単に学問の世界のみにとどまらず、課題をみつけて解決するという「問題解決能力」を身につけたことにあるのではないのでしょうか。たとえ今後、予測しにくい時代が来ようとも、大学院で培った「知慧」を力に、果敢に決断して人生を切り拓いていってほしいと願います。

不透明な社会を

生き抜くために

法学部長 菊田 真司



ご卒業おめでとうございます。みなさんの在学中に、世界は大きく様変わりしてしまいました。国際秩序は根底から覆りつつありますし、国内では、新たな対立軸に基づく政党力が伸びつつあります。経済に目を向けると、生成AIの急速な発展により、AIがホワイトカラーの仕事の多くを代替する未来が現実のものになりつつあります。みなさんが入学したときに前提にしていた常識の多くが通用しない時代が始まっています。

容易ではないでしょう。その中で、最善の方法を考え出すには「答えが見つからない」という不安定な状態に耐える「ネガティブ・ケイパビリティ」が必要になります。また、最善と思える方法を実行してもらうまいかないこと、こうした社会ではまますまします。その時には、自分自身を含み状況をうまく立て直していく「レジリエンス」の能力が重要になるでしょう。

みなさんは、大学時代にこの二つの能力を十分に磨いてこられたはずですが、その能力を生かして、この不確実性に満ちた世界で大いに活躍されることを心から祈念しています。

未知の大海に

共に漕ぎ出そう

観光まちづくり学部長 西村 幸夫



ご卒業おめでとうございます。とりわけひとりも先輩がいらない中、私たちが新しい学部を選んでくれた観光まちづくり学部一期生のみなさん、卒業おめでとうございます。

みなさんにとって大学の生活は試行錯誤の連続だったかもしれません。そしてそのことは私たち教職員にとっても同じでした。ともに造り上げてきた学部の4年間でした。

卒業後も「学生」であれ

文学部長 谷口 雅博



卒業生の皆さん、おめでとうございませう。これまで皆さんは学生という立場でした。学んで生きているというので、学ぶことが生活の中心となるのが学生時代、学生生活ということになります。これからは学ぶことがそのものではなく、学んで生きているということになります。学んで生きているということになります。学んで生きているということになります。

真実を探求する

センスと徳性を社会へ

神道文化学部長 黒崎 浩行



ご卒業を心よりお祝い申し上げます。皆さんが在学中のこの数年の間に起こった世の中の変化を思い返してみると、ソーシャルメディアのさらなる普及及浸透とそれがもたらす混乱、そして生成AIの登場が挙げられるかと思えます。

不明の情報に惑わされることも多かつたのではないのでしょうか。とりわけ深刻なのが、生成AIがしばしば出力する「ハルシネーション」(幻覚)です。あたかも知ったかぶりをするかのように、尋ねられたことに対して事実に基づかない答えを返します。

かわらないもの

「祈り」のこころ

専攻科長 松本 久史



専攻科生の皆さん、修了おめでとうございます。限られた一年間を講義や実習などに懸命に取り組まれ、今日の佳き日を迎えたことをお祝い申し上げます。

さて、昨今の我が国を取り巻く状況を振り返れば、「一番身近な「お米」が昨年度以来の高値をつけ、食品類の値上げが相次いだことに気づくでしょう。

「大学の学び」と

「卒業後の学び」

経済学部長 根岸 毅宏



「ご卒業おめでとうございませう。経済学部の授業に、卒業生が外部講師となり職業キャリアについて話す院友に学ぶキャリアがあります。大学で学んだことは卒業後の仕事にいきいます。」と質問すると、ある卒業生は「経済学的センスが身に付いた」「大学時代の問題意識が仕事に生きています」とポジティブな回答をくれます。この「経済学的センス」や「大学時代の問題意識」について、私なりの理解を紹介いたします。

捉え、思考することができません。知らないことや経験していないことは、認識すること自体が難しいのです。そのため、皆さんの物事の捉え方、考え方である思考の枠組みには、経済学や経営学が必ずあります。この思考の枠組みは、卒業後にキャリアを積み重ねる中で学んだ知識と経験した知恵を加えることにより、自分のキャリアを反映させたオリジナルなものへと進化・発展させることができます。

「人間開発」の

新たな担い手へ

人間開発学部長 太田 直之



皆さん、ご卒業おめでとうございませう。無事に大学を卒業された皆さんの人生の門出を、心よりお祝い申し上げます。

通して皆さんの力を花開かせるとともに、しなやかな力を備えた教員や指導者、さらにはさまざまな場面チームを率いるリーダーとして、皆さん自身に成長してほしいという願いが込められています。これまでの学生として「人間開発」される側でありましたが、これから自分が主体となって「人間開発」を担う側となり、社会に貢献していけることを大いに期待しています。

「幅広く学ぶ」ことの

すすめ

別科長 加瀬 直弥



今から1220年ほど前、齋部広成(いはいのひろなり)という人物は、神祇祭祀行政の不備を述べ、時の平城天皇に上申したとされ、その内容を伝えるのが、「古語拾遺」という名の文献です。別科の修了生のみなさんなら、授業などを通じてご存じでしょう。

「古語拾遺」からは、時代の流れを受け止めるべきではない、編纂者の姿がうかがい知れます。祭祀の現場における自身一族を復権させようとする当人の望みも読み取れます。しかし、彼の望みは、それらの点だけで言い尽くせるものではありません。

キャンパスと別れの時

Time to say goodbye to campus

この3月をもって本学を去る方々の中から、定年退職を迎える11人の教員に、学生、教職員への「惜別の言葉」を寄せてもらった。

私は平成28年4月に本学の人間開発学部に着任し、ちょうど10年間、教職員の皆様にはたいへんお世話になりました。私の専門分野は「算数・数学教育」です。若いころは大学で研究・教育の活動をし、その後は文部省と文部科学省で20年ほど教育課程に関する行政職の仕事を務めてきました。再び大学に戻り、人間開発学部では算数教育に関する授業を担当しました。小学校教員免許状を取得する学生向けに、算数教育の目標や指導内容、指導方法を研究するものです。子ども向け算数教科書での具体的内容を調べたり、小学校授業での子どもの実際の活動の様子を紹介したりすると、大学生の興味や関心が高まるようです。卒業研究ゼミでは、学生は算数教育に関するテーマを選んだり、別の分野のテーマを選んだりバラエティーに富んでいて楽しみました。学生の皆さんには、在学中も卒業後も、家庭の中で社会の中で幸福な人生を歩まれるよう祈っています。



人間開発学部での10年間
人間開発学部教授 吉川 成夫

2001年に赴任してから25年たちました。その間みるみる本学は整備され、なかなかの環境になりました。片付け終わった研究室を眺めながら、いま30歳ぐらいで本学に赴任したらどんなに良かったかと思いました。どうやら早く生まれすぎたようです。とは言え、生成AIの時代に入って、大学や知識総体のありようが問い直される中で、卒論とかレポートの扱いをどのようにするか悩ましい思いはもうなくて済むと思うと気が取ります。これからは、ただのネットワークカーに戻って、これまで貯めたままになっていた知識のかけらを死ぬまで発信し続けたいと思います。



さらばシブヤイースト
経済学部教授 野村 一夫

国学院大学に奉職して36年経ちました。余りに長い年月で、言葉に尽くせない思いがあります。言葉に尽くせないのですから、何かを語ることはできません。私は歴史家ですので、過去を語るのが仕事ですが、史学科の学生たちには、自分の興味関心ではなく、振り返って意味のある過去を探究してください、と繰り返しお願いしてきました。ところが自分自身の36年の過去を振り返ってみると、波瀾万丈ではありましたが、果たして意味のあることがあったのか、はなはだ心許ない思いです。ですから、大学にとって意味のない思い出を語るのは控えましょう。すでに故人となった方々を含めて、この36年にお世話になった多くの教職員の方々、卒業生、関係するすべての皆様、心から御礼を申し上げて、お別れさせていただきます。

語りえない過去

文学部教授 大久保 桂子

2021年は「病い」の年でした。2月に「運発性内リンパ水腫」の手術のために、11月には「間質性肺炎」で2週間入院しました。手術に期待した効果がなかったのに対し、後者は4週間と予告された入院が2週間ですみました。人間（の精神）は身体に対して主体ではないことを身をもって経験しました。「主体」という言葉は理念であって事実ではない、と。



病い・老い・死について
文学部教授 藤野 寛

「老い」というのは事実ですが、これとどうつき合ったらよいかかわらず、途方に暮れています。何しろ、「老い」は初めての経験で、だからといって世に流布する定型に従う気持ちにもなれません。手探りするしかないようです。

死ぬことは災いである、けれども、不死（永遠の生）はそれに劣らず災いだろうということ、B・ウィリアムズとS・シェフラーの論考から学びました。死が別れであることは確かだと思います。国学院大学ともお別れするわけですが、目下、死の予行演習をしている気分です。さようなら。

打ち寄せるコロナの猛威を感じながら、新学部設置準備室に着任した2020年4月1日。西村幸夫先生はじめ準備室の皆さんと新学部の立ち上げに関われるのは、企業経験だけの身として緊張しつつも、高揚する心持であったと記憶しています。その後、2022年4月には晴れて第1期生を迎え、たまプラーザでの「観光まちづくり」の学びがスタートできましたのは、大きな喜びでした。この間の、学長の針本正行先生はもとより先生方、事務局の皆さまのお力添えに深く感謝申し上げます。「地域を見つめ、地域を動かす」をモットーとして、地域から観光を考える「観光まちづくり」の学びのあり方は、4年間で確実に根付いて参りました。インターンシップ、ゼミ合宿、個人研究などでお世話になった地域を「第2のふるさと」と呼び、頻繁に行き来する学生もあり、頼もしい限りです。国学院と地域との連携がさらに深まり、「観光まちづくり」が進化発展することを祈念しております。



地域と共に歩む「観光まちづくり」
観光まちづくり学部教授 楓 千里

16年前、教育インターンシップの開講に伴い人間開発学部に着任し、地域の学校と学生のつながりをつくる私の役割が始まりました。学校や教育委員会での経験を生かし、よさや個性をひらくという「人間開発」の理念をもとに何をすべきか、迷いながら仕事を始めました。「学校に学生が入ってきて何ができるのですか？」と冷やかな声も聞かれた当時の学校現場の雰囲気を出すと、教職に向けて学生を育ててくださろうとする現在の学校の状況は大きく変わったといえます。学生が取り組む教育インターンシップの活動は、ボランティア、教育実習、教員採用試験と、教職に向けての道筋につながりました。学生自らが動き体験から学び、地域や学校と、そして仲間同士でつながりを紡いできました。同学年の学生同士だけでなく、先輩も後輩も共に学び伝え合う姿を見ることができるようになりました。学生の成長を誇らしく思い、共に支えて頂いた教職員の皆様に感謝しています。



つながりをつくる仲間の力で
人間開発学部教授(特別専任) 小笠原 優子

文部科学省所管の独法を経て国学院に着任したのが令和3年の春でした。以来、法人本部や幼稚園等さまざまな部署との出会いがあり、充実した日々を過ごすことができました。特に、明るく前向きな学生達との日々は教員生活の宝になると思います。ゼミやルーム、授業でのかかわりは、「教員養成」の在り方を改めて考えるきっかけを与えてくれました。学生達の言葉や卒業生の思いが、在職を務めてきた子ども家庭庁や文部科学省での委員活動に示唆を与えてくれましたし、逆に授業の中で国が目指す最新の動向を授業でフィードバックできたと思います。



感謝の気持ちを込めて
人間開発学部教授 鈴木 みゆき

同僚や多くの教職員の皆様方にも本当にお世話になりました。国学院で出会い、かかわった多くの方は皆「国学院愛」に満ちていて、歴史と伝統ある学び舎を大切にしている姿勢に感銘を受けました。心からの感謝とともに、本学のますますのご発展を祈念いたします。

20年間の教員生活を振り返ると、まず言えるのは実に「やりがいのある仕事」だったということです。どうしたら学生たちが、興味をもって楽しく積極的に授業に取り組めるのか、試行錯誤を繰り返しながら「保育は楽しくやりがいのある仕事であること」「子どもたちは今を懸命に生きていること」を様々な形で伝えてきました。そして今多くの卒業生が現場で活躍しています。彼らは間違いなく社会を支える優秀な人材であり、私の誇りでもあります。彼らのおかげで楽しく充実した教員生活を送ることができました。



学び続ける保育者を応援したい
人間開発学部教授 塩谷 香

国学院大学人間開発学部子ども支援学科では10年間お世話になりました。先生方をはじめ職員の皆様を支えられながらなんとか仕事できたことに心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。今後も卒業生のみならず、学び続け進化していく保育者を見守り応援続けたいと考えています。

教職員人事

【退職】(3月11日現在)

◎定年

- ◆文学部◇教授▷藤野寛▷大久保桂子
- ◆経済学部◇教授▷野村一夫
- ◆人間開発学部◇教授▷吉川成夫▷塩谷香▷鈴木みゆき◇教授(特別専任)▷小笠原優子
- ◆観光まちづくり学部◇教授▷楓千里▷下村彰男▷西村幸夫
- ◆研究開発推進機構◇教授▷池田榮史

◎自己都合

- ◆文学部◇教授▷浅野春二
- ◆経済学部◇教授▷中泉真樹◇准教授▷辻和洋
- ◆人間開発学部◇教授▷青木康太郎
- ◆観光まちづくり学部◇助手▷山島有喜
- ◆大学事務局◇専任▷島村昌利(たまプラーザ事務部長)▷田中勇也(学生事務部キャリアサポート課主査)

◎任期満了

- ◆研究開発推進機構◇助教(特別専任)▷川嶋麗華

◎期間満了

- ◆大学事務局◇嘱託▷内山歩美(神道研修事務局神道研修事務課嘱託)

以上、令和8年3月31日付

1975(昭和50)年4月に本学文学部史学科入学後、本学考古学研究室助手を経て、37年間を琉球大学で過ごしました。2021(令和3)年4月、再び母校へ奉職することができ、充実したこの5年間を過ごさせていただきましたことに感謝申し上げます。

本学助手を振り出しに過ごした約半世紀にわたる大学教員生活の中で、学ぶことの意義について、私なりにずっと考え続けてきました。結果としてたどり着いたのは、本学校歌に謳われた精神です。「古今の書明らめて、國の基を究むる」こと、「祖先の道」を学び「子孫の道」を指し示すこと、私の学びはこれに尽きます。漸くにして気がついた不明を愧じるとともに、人生百年時代の今、これからも終生の道標として掲げていきたいと思えます。

在校生、教職員の皆様それぞれに学びへの思いを懐きつつ、より良い人生を希求されることを祈念申し上げます。



校歌に思い至る
研究開発推進機構教授 池田 榮史

観光まちづくり学部という新しい学部の創設から4年間、そしてその前の新学部設置準備室時代の2年間、ほんとうに初めての体験ばかりの試行錯誤の6年間でした。初めての教員チームで、初めてのカリキュラムで、初めてのキャンパスで、初めての学生たちを迎えることになったからです。「観光まちづくり」という学部名称自体も日本初のうえ、共同作業を主とした演習に力点を置いた学修のスタイルも、日本ではほとんど試みられたことのないものでした。こうした果敢な試みがさしたる綻びも見せず、初めての卒業生を送り出すことが出来たことには、学生諸君の前向きな姿勢と共に、同僚たる教員メンバーの息の合ったチームワークがあったからだに感謝に堪えません。これほど仲の良いチームも珍しいと思います。それもこれも新学部の様々な試みを成功に導こうとする熱い気持ちを全員で共有できたからだだと思います。みなさん、ありがとうございました。



試行錯誤の6年間でした
観光まちづくり学部長(教授) 西村 幸夫

2020年4月、本学に着任した時の様子をまだ鮮明に覚えています。この間、最初の1年は渋谷キャンパスで、その後の5年をたまプラーザキャンパスで過ごさせていただきました。高層の講義棟に囲まれた都市広場的な空間に神殿が鎮座する渋谷、そして台地と谷戸を生かした桜並木の美しいたまプラーザと、それぞれに特徴的なキャンパスの風景が印象に残っています。



あつという間でした
観光まちづくり学部教授 下村 彰男

そして、「観光まちづくり」という新たな領域での学部のかたちを模索しながら、同僚の先生方や新たな学修環境に果敢に挑んでくれた学生たちとともに過ごした6年間はあつという間でした。良い経験をさせてもらったと、さりとりたいところですが、担当する講義や演習への取り組みのほか、学部全体での教育に関わる仕組みの構築など、試行錯誤の積み上げでなかなか大変な日々であったように思います。一期生を輩出し新たなステージに立った観光まちづくり学部の今後の発展を祈念しています。

読者アンケート

本紙へのご感想を
お待ちしております

「國學院大學学報」では、読者の皆さまからのご意見・ご感想を募集しています。今後の紙面作りの参考にさせていただきますので、右記(二次元コード)のフォームから、ぜひご協力をお願いいたします。昨年度のアンケート結果は、学報バックナンバーページ(https://www.kokugakuin.ac.jp/about/efforts/p20)でご確認ください。
 圖広報課 ☎03・5466・0130



「國學院大學学報」購読のご案内

本学の機関紙を
定期購読してみませんか？

「國學院大學学報」は、本学の学生・院友・教職員の活躍や、本学のニュースをお届けする機関紙(年11回発行、8月は休刊)です。
 年間購読料は500円(税込み・送料含む)。また、感想などはがき・封書・FAX・Eメールにて随時募集しております。卒業を迎える皆さまで、購読ご希望の方は、二次元コードからお申し込みいただくか、広報課までご連絡ください。
お問い合わせ先 総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28
 【電話】03・5466・0130(直通) 【FAX】03・5466・0528
 【メール】kouho@kokugakuin.ac.jp 【HP】https://www.kokugakuin.ac.jp/



令和7年度学生部長賞が決定

学生の活躍光る



学長特別賞

部門	受賞者	受賞理由
団体	陸上競技部	第37回出雲全日本大学選抜駅伝競走 2連覇 第102回東京箱根間往復大学駅伝競走 総合2位
個人	上原 琉翔 (健体4)	FISUユニバーシティゲームズ2025 ハーフマラソン第3位
	荒川 琉正 (健体1)	トルコジュニア国際柔道大会 男子73kg級 優勝 世界ジュニア柔道選手権大会 男子73kg級 準優勝
	石井 駿介 (外文4)	「国学院大学成績優秀者奨学制度」3年連続表彰 (令和5年度成績最優秀者、令和6・7年度成績優秀者)
	富田 理乃 (史4)	「国学院大学成績優秀者奨学制度」3年連続表彰 (令和5・6・7年度成績最優秀者)
	松林 穂高 (経営4)	「国学院大学成績優秀者奨学制度」3年連続表彰 (令和6・7年度成績最優秀者、令和5年度成績優秀者)
	齋藤 ゆいか (神文4)	「国学院大学成績優秀者奨学制度」3年連続表彰 (令和6・7年度成績最優秀者、令和5年度成績優秀者)
	藤沼 日和 (観まち4)	「国学院大学成績優秀者奨学制度」3年連続表彰 (令和6・7年度成績最優秀者、令和5年度成績優秀者)
	草刈 智也 (観まち4)	「国学院大学成績優秀者奨学制度」3年連続表彰 (令和5・6・7年度成績優秀者)

学生部長賞

部門	受賞者	受賞理由
団体	柔道部	全日本学生柔道体重別団体優勝大会 第3位 東京学生柔道優勝大会 準優勝
	ソフトテニス部	文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会 第3位
	吹奏楽部	建国記念の日奉祝パレード 優勝 令和7年度 東京都大学吹奏楽部コンクール 金賞 令和7年度 第51回東京都大学アンサンブルコンテスト トロンボーン四重奏 金賞・サクソフォーン四重奏 銀賞
	スポーツチャンバラ部(女子)	第30回春季関東学生スポーツチャンバラ選手権大会 上級生女子一部団体戦優勝 第16回秋季関東学生スポーツチャンバラ選手権大会 上級生女子一部団体戦優勝
	ドリル競技部SEALS	第25回全日本チアダンス選手権大会 大学生編成Pom部門 Small・Medium 第1位
	モーターボート水上スキー部	第70回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会 男子ジャンプ団体 準優勝
	たまプラーザ Laboratory	独立行政法人国立青少年教育振興機構による子どもゆめ基金の助成が採択された科学体験イベント「ハチャメチャ☆サイエンスランド」の開催
体育連合会	継続的な献血事業への協力により、献血功労者厚生労働大臣感謝状を授与	
個人	飯田 真渚斗 (健体4)	東都大学野球秋季リーグ 最優秀投手賞・最優秀防御率賞
	立花 祥希 (健体4)	東都大学野球秋季リーグ ベストナイン (捕手)
	緒方 漣 (健体2)	第45回日米大学野球選手権大会 大学日本代表 (侍ジャパン) 選出 東都大学野球春季リーグ ベストナイン (遊撃手) 東都大学野球秋季リーグ ベストナイン (遊撃手)
	青木 瑠郁 (健体4)	第102回東京箱根間往復大学駅伝競走 第1区区間新 第38回 2025 上尾シティハーフマラソン (大学生男子の部) 優勝
	高山 豪起 (法4)	第102回東京箱根間往復大学駅伝競走 第7区区間賞
	辻原 輝 (史3)	第37回出雲全日本大学選抜駅伝競走 第4区区間新
	野中 恒亨 (健体3)	秩父宮賜杯 第57回全日本大学駅伝対校選手権大会 第3区区間賞
	宮部 真臣 (観まち4)	全日本学生柔道体重別選手権大会 男子60kg級 準優勝
	飯田 航仁 (観まち3)	内閣総理大臣杯全日本学生選抜ソフトテニスインドア選手権大会 ダブルス第3位
	吉村 拓海 (法2)	全日本学生ソフトテニス選手権大会 シングルス第3位

部門	受賞者	受賞理由		
個人	喜多 洸介 (経4)	第94回全日本学生キックボクシング選手権大会 喜多川賞		
	小林 耀 (経3)	第94回全日本学生キックボクシング選手権大会 ミドル級優勝		
	伊藤 真央 (法4)	2025年JAF全日本ジムカーナ選手権 BC1クラス シリーズランキング 第3位 ※第5戦の北海道オールジャパンジムカーナで優勝 鈴鹿市長杯全日本学生ジムカーナ選手権大会 男子個人の部 準優勝		
	大滝 快晴 (法3)	第4回全日本大学準硬式野球 東西対抗日本一決定戦甲子園大会 MVP		
	宮之前 琉花 (法4)	第16回秋季関東学生スポーツチャンバラ選手権大会 女子長剣フリー Superiorクラス 優勝・女子橋長剣 Superiorクラス 優勝・女子有段基本動作 準優勝・女子 グランドチャンピオン		
	高松 まいか (法2)	第16回秋季関東学生スポーツチャンバラ選手権大会 女子長剣両手 Basicクラス 優勝・女子二刀 Basicクラス 優勝 第32回全日本学生スポーツチャンバラ選手権大会 女子長剣フリー Advancedクラス 優勝		
	神崎 竜輝 (史1)	第32回全日本学生スポーツチャンバラ選手権大会 新人男子グランドチャンピオン戦 準優勝・新人男子長剣フリー Advancedクラス 優勝・新人男子長剣両手 Advancedクラス 優勝		
	篠原 勇哉 (経営4)	第71回桂宮杯全日本水上スキー選手権大会 Under21 男子トリック 第2位		
	佐藤 光莉 (子支4)	2025 ALL JAPAN Uni-dancing Competition The Third Artistic Stage 賞 (第3位) 全日本一輪車競技大会 グループ演技部門 総合優勝・ソロ演技部門 アーティスティック部門女子の部 総合優勝 2025 関東 OPEN 一輪車競技大会 グループ演技部門 中学生以上の部 優勝・最優秀作品賞		
	村田 莉空 (外文4)	相模原市で人命救助に協力。救急への通報や心臓マッサージなどの救護対応を行い、同市消防署からの表彰が決定		
	草野 大晴 (健体4)	佐藤 悠雅 (経2)	笹目公園野球場横での交通事故発生時、亜細亜大の学生3人とともに現場交通整理及び応急救護対応に協力	
	伊藤 準之助 (経営2)	小野 馨太 (史2)	渥美 翔 (法4)	さいたま市における地域貢献活動
	土井 恒輝 (法4)	国家公務員採用総合職試験合格	瀧上 英治 (経営4)	公認会計士試験合格
樂満 凜 (法4)	公認会計士試験合格	菅原 哲 (経営3)	公認会計士試験合格	

国学院大学学生部は、令和7年度学長特別賞を1団体と8人に、学生部長賞を8団体と30人に贈ることを決定した。学生部長賞の表彰授与式が3月5日に渋谷キャンパスで行われ、宮下雄治学生部長(経済学部教授)から表彰状が授与された。学長特別賞を受賞した団体と4年生への表彰は3月22日の卒業式、1年生への表彰は4月2日の入学式と合わせて、いずれもグランドプリンスホテル新高輪(東京都港区)で行われる。学生部長賞は、課外活動の大会・コンクールなどで優秀な成績を収めた団体・個人や、社会奉仕・文化活動において優れた実績を上げた団体・個人を表彰するもの。学長特別賞は、学生部長賞候補者の中から特に優れた成果を上げた団体・個人に贈られる。各賞を受賞した団体・個人は別表の通り。(敬称略)

法学会懸賞論文 5人が受賞



令和7年度の法学会懸賞論文表彰式が3月3日、渋谷キャンパスで行われた。この懸賞論文は法律学・政治学に関するテーマで法学部学生が執筆した論文が対象。今回は応募15本(法律系8本、政治系7本)から、法学部教員による厳正な審査の結果、優秀賞2本、佳作3本が選ばれた。表彰式では菊田真司法学部長(教授=写真後列左から4番目)が「AIが急速に発達する中で、最後に人間の役割として残るのは、皆さんが論文執筆の過程で取り組んだ『新しい問題を立てる』ことだ。この論文作成を通して、皆さんがAIに代替できない力を持っていることを証明したといえる」と受賞者をたたえ、賞状を手渡した。受賞者は以下の通り。(敬称略)

- ◆優秀賞=▷榎本凜子(法3)▷茅野静秀(法3)
 - ◆佳作=▷宮井恵名(法4)▷川本和宏(法3)▷梶井康佑(法2)
- ※論題などの詳細は大学HP(二次元コード)で公開している



経済学会卒業論文・卒業レポート表彰制度 13人が受賞



経済学部の卒業論文・卒業レポート表彰制度の表彰式が3月9日に、渋谷キャンパスで行われた。経済学部では卒業論文・卒業レポートの提出が必修となっており、この表彰制度はゼミ活動や大学での学びの集大成となる卒業論文・卒業レポートへの取り組みをたたえるために創設された。今年度は、指導教員によって推薦された優秀な卒業論文および卒業レポート13本が推薦論文として選出された。

表彰式では根岸毅宏・同学部長(教授=写真前列左から3番目)が「人間は頑張っている瞬間もあるが、そんな時は自分自身が過去に努力した証を振り返ることで、自分を励ますことができる。今回の受賞も、皆さんの努力の証として大切にしてほしい」と述べ、受賞者らに表彰状を授与し、杉山里枝・同学部教授が副賞を手渡した。受賞者は以下の通り。(敬称略)

- ◆受賞者=◇経済学科▷大杉燎▷岡崎彩乃▷奥山怜央▷杉山唯子▷高橋そら▷寺澤愛美▷野口遙加▷山口翔子
 - ◇経営学科▷石井杏香▷坂本翔大▷成澤元太▷松林穂高▷浦田唯菜
- ※論題などの詳細は大学HP(二次元コード)で公開している



令和8年度国内外派遣研究員が決定

国学院大学の令和8年度国内および国外派遣研究員の研究課題、研修先、派遣期間が決定した。詳細は本学HP(二次元コード)で公開している。



大学院博士後期課程 3人が課程博士号

大学院博士後期課程を修了する3人に対して、博士号が授与される。対象者氏名、学位、論文題目、主査、副査は別表の通り。

(敬称略)

氏名	学位	論文題目	主査	副査
中山 さら	博士 (神道学)	出雲国造神賀詞奏上儀礼と古代の祭祀	笹生衛教授	小倉慈司青山学院大学教授 岡田莊司本学名誉教授
ZHANG WENWEN (張雯雯)	博士 (歴史学)	北朝皇帝祭祀制度の研究 — 鮮卑拓跋部を中心として —	江川式部准教授	櫻井智美大学院兼任講師 会田大輔明治大学兼任講師
吉澤 徹	博士 (歴史学)	縄文中期環状集落における建築更新の研究	谷口康浩准教授	青木敬教授 榎原功一帝京大学准教授 阿部昭典大学院兼任講師

博士号の授与

◎大学院(9月卒業含む)◆
博士前期課程修了◆文学研究科79人▽神道学・宗教学専攻14人▽文学専攻32人▽史学専攻33人▽法学研究科▽法律学専攻4人▽経済学研究科▽経済学専攻13人◆**博士後期課程修了**◆文学研究科3人▽神道学・宗教学専攻1人▽文学専攻0人▽史学専攻2人▽法学研究科▽法律学専攻0人▽経済学研究科▽経済学専攻0人◆**博士課程後期所定単位修得退学**◆文学研究科16人▽神道学・宗教学専攻7人▽文学専攻7人▽史学専攻2人▽法学

研究科▽法律学専攻0人▽経済学研究科▽経済学専攻1人(大学院合計116人)
◎学部(9月卒業含む)◆**文学部**751人▽哲学科69人▽史学科229人▽日本文学科281人▽中国文学科44人▽外国語文化学科128人◆**経済学部**548人▽経済学科学科267人▽経済ネットワーク学科学科0人▽経営学科学科281人◆**法学部**▽法律学科学科464人▽法律専攻386人(3年次卒業1人を含む)▽法律専門職専攻38人▽政治専攻40人◆**神道文化学部**▽神道文

化学科200人◆**人間開発学部**346人▽初等教育学科105人▽健康体育学科142人▽子ども支援学科99人◆**観光まちづくり学部**▽観光まちづくり学科256人(学部合計2565人)
◎**専攻科**▽神道学専攻科神道学専攻20人(専攻科合計20人)
◎**別科**▽神道専修1類1人▽神道専修II類3人(別科合計4人) [総計2705人]

所属別134期卒業生・修了生数(3月11日時点)

新卒業・修了生の資格取得人数(3月11日時点)

令和7年度卒業・修了生(9月卒業含む)のうち、各種資格を取得した人数は次の通り。
◆**神職**▽明階検定合格・明階授与21人(学部)▽明階検定合格・正階授与98人(専攻科・学部)▽明階検定合格I人(学部)▽正階検定合格・正階授与3人(別科神道専修II類)▽権正階検定合格・権正階授与1人(別科神道専修

I類)◆**博物館学芸員**139人(学部)◆**図書館司書**76人(学部)◆**学校図書館司書教諭**21人(学部)◆**教職**▽高校一種386人(学部)▽中学一種304人(学部)▽小学校一種134人(学部)▽幼稚園教諭一種116人(学部)▽特別支援一種43人(学部)▽保育士78人(学部)▽高校専修19人(大学院)▽中学専修18人(大学院)

若木育成会(半田りえ子会長)は、令和7年度卒業・修了生で優秀な成績を修めた次の学生を表彰する。(敬称略、学部ごと表彰順) ※は3年次卒業
◆**文学部**▽富田理乃(史)、細谷咲良(日文) ◆**経済学部**▽中田かれん(経済)、加藤明(同)、松林穂高(経営)、奥山悦央(経済) ◆**法学部**▽土井

恒輝、菅野将生、大朝梨紗子 ※**神道文化学部**▽齋藤ゆいか、片山尚彦、室井早優美、佐々木麻結 ◆**人間開発学部**▽中村恵梨(健体)、中島菜々海(初教) ◆**観光まちづくり学部**▽藤沼日和、山岸佳祐 ◆**専攻科神道学専攻**▽齋藤俊兵、宮西惟成 ◆**別科神道専修**▽浅部大樹(別科I)、福知由莉子(別科II)

◆**神宮大宮司賞**▽齋藤俊兵(神専攻)▽室井早優美(神文)▽佐々木麻結(同)
◆**神社本庁統理賞**▽宮西惟成

若木育成会からの表彰

若木育成会からの表彰

神職課程に学び、成績優秀な令和7年度卒業・修了生に対して、神社界から次の各賞が贈られた。(敬称略)
◆**神宮大宮司賞**▽齋藤俊兵(神専攻)▽室井早優美(神文)▽佐々木麻結(同)
◆**神社本庁統理賞**▽宮西惟成

神職課程に学び、成績優秀な令和7年度卒業・修了生に対して、神社界から次の各賞が贈られた。(敬称略)
◆**神宮大宮司賞**▽齋藤俊兵(神専攻)▽室井早優美(神文)▽佐々木麻結(同)
◆**神社本庁統理賞**▽宮西惟成

全国保育士養成協議会からの表彰

全国保育士養成協議会からの表彰

一般社団法人全国保育士養成協議会は、会員校の令和7年度卒業生で優秀な成績を修め、保育士としての活躍が期待される学生を表彰している。本学では次の学生が対象となった。(敬称略)
◇小林夏子(子支)

一般社団法人全国保育士養成協議会は、会員校の令和7年度卒業生で優秀な成績を修め、保育士としての活躍が期待される学生を表彰している。本学では次の学生が対象となった。(敬称略)
◇小林夏子(子支)

「卒業おめでとう」が届きます

大学院の新修了生・所定単位修得退学者には、本学から「オリジナル図書カード」と「オリジナル扇子」、6学部・専攻科・別科の新卒業生・修了生には、本学から「オリジナルタンブラー」、若木育成会



からは、「オリジナル名刺入れ」を贈ります。

国学院大学 院友会

国学院大学の同窓会



国学院大学の卒業生は、「院友」と称され、一般財団法人国学院大学院友会(吉田茂穂会長)が中心となり、昭和40年・73期政経、昭和41年・74期神専攻)の会員となります。
令和8年3月1日現在、会員の総数は16万9千人を超えています。また、全ての都道府県に支部があり、合計57支部を数えます。他に学術関係、マスコミ関係、経済学部関係、法学部関係と職域などに分かれた四つの協力団体もあります。
本会の活動は、母校の設立趣旨を発揮し、本会の発展と母校の隆昌に寄与することを目的としています。これらを達成するため、本部では各種講座、講演会、コンサートなどを主催し、全国の各支部でも公益事業などを展開しています。また、同窓会報である「院友会報」の発行、院友相互の交流を深める「院友大会」や「新年院友交歓会」を行っています。さらに、院友の活動拠点となる「院友会館」の運営も行っていきます。

国学院大学院友会の歩み

明治20(1887)年「水穂会」結成が原点

◆**創設の頃**
明治15年に国学院大学の母体・皇典講究所が設立され、20年にその卒業生が「水穂会」を結成したのが院友会の原点です。23年に「国学院」が皇典講究所の教育機関として設置され、27年にその卒業生によって「水穂会」とは別に「院友会」が組織されました。その後、二つの会が共に活動するようになり、神職関係の「院友会」も昭和7年に加わり、「院友会」として統一されています。

院友会館と財団法人の設立

院友の団結は強く、各地・職域で活発な活動が続けられました。昭和6年には財団法人となり、7年には初代会長・宮西惟助氏の推進によって建築された「院友会館」は本会活動の拠点となり、卒業

国学院大学院友会のご案内

5月に、恒例の院友大会(大同窓会)を開催いたします。会場は明治記念館です。全国の院友の皆さまはもとより、134期生(新院友)の皆さまも情報交換の場として、ぜひお越しください。
●**一般公開講演会(入場無料)**
日時:令和8(2026)年5月23日(土) 16時15分~17時15分
講師:矢部健太郎(本学文学部教授)
●**令和8年度国学院大学院友会大会**
日時:同17時30分(講演会終了後から)
会場:10000円
1325134期(新院友) 50000円
国学院友会事務局
03・3400・7781
院友会HP



i インフォダイジェスト

校 友 課

◎住所・氏名の変更をご連絡ください

ホームカミングデー等のご案内をさせていただきます。卒業後に住所・氏名・電話番号・メールアドレス・勤務先などに変更があった場合は、本学HP(卒業生⇒住所変更などのご連絡)のフォームまたはメール・電話・はがき・FAXで校友課に連絡をお願いいたします。

◎各種調査・個人情報について

本学が電話・郵便物などで院友の皆さまの個人情報について調査する場合は、「渋谷キャンパス所在地および国学院大学校友課名」で実施します。本学と一般財団法人国学院大学院友会(以下、院友会)は院友の皆さまの個人情報を共同で利用させていただいており、各種発送物が届け出住所に配達できない場合は校友課および院友会から電話でお問い合わせする場合がございます。郵便物・電話などで不審な点がございましたら回答せず、校友課までお問い合わせください。

☎校友課

(☎03・5466・0131、☎03・5466・0185、
✉soumu-kouyu@kokugakuin.ac.jp)

学 生 生 活 課

◎日本学生支援機構奨学金を返還する方へ

日本学生支援機構(JASSO)奨学金の貸与者は、次の要領で返還を円滑に行ってください。

①住所・氏名・勤務先・連帯保証人などに変更があった場合は、スカラネット・パーソナルで手続きしてください。その際は奨学生番号が必要となります。「返還確認票」「返還のてびき」は返還が完了するまで大切に保管してください。

②返還困難な状況が生じた場合は、減額返還や返還期限猶予を願い出ることができます。スカラネット・パーソナルで手続きしてください。

※上記以外の手続きについては、下記相談センターへ

☎日本学生支援機構奨学金相談センター

(☎0570・666・301 (ナビダイヤル))

就職担当3課 (キャリアサポート課・教職センター・たまプラーザ事務課)

◎卒業後にもご協力を、進路未定者は相談を

新卒業生の皆さんは、進路の別を問わず在学生の就職活動支援(OBOG訪問など)にご協力をお願いします。また、進路未定の方には継続して相談に応じ、卒業後も民間企業や教員求人を紹介しています。お気軽にご利用ください。

☎キャリアサポート課 (☎03・5466・0151)

教職センター (☎03・5466・0152)

たまプラーザ事務課 (☎045・904・7707)

教 務 課

◎証明書の発行方法

各種証明書は証明書発行システムよりお申し込みください。システム利用にはユーザー登録が必要となり、承認には数日かかる場合があります。詳細は本学HP(卒業生⇒証明書発行)に掲載しています。

発行方法は①コンビニエンスストア発行②学内の証明書自動発行機③郵送④窓口の4通りです。①②は即時発行、③④は原則として申請日から5営業日後の発行・発送となります。なお、英文成績証明書は約1週間後の発行・発送となります。

※令和8年4月から発行料金を改定いたします。改定後の料金については本学HPからご確認ください

※休業期間や行事などで発行に時間を要する場合がありますので、余裕を持った申請をお願いします

※申請時には身分証明書(運転免許証やマイナンバーカードなど)が必要となります。氏名などに変更があった場合は戸籍抄本(写)を添えて申請してください

料1通900円(内訳:発行手数料600円+システム利用手数料300円)

※郵送発行は別途送料、コンビニエンスストア発行は別途印刷代1枚60円

☎教務課 (☎03・5466・0135)

たまプラーザ事務課 (☎045・904・7721)

エクステンションセンター

◎オープンカレッジを開講しています

エクステンションセンターでは、生涯学習の場として、オープンカレッジを開講しております。令和8年度は、神道・文学・歴史など幅広い分野を全29講座対面で開講いたします。

新卒業生の皆様には、入会金および受講料の割引制度があり、オープンカレッジ会員には、オンライン公開講座を含むセンター主催の各種講座をご案内いたします。

この機会に、ぜひパンフレットをご請求ください。

☎エクステンションセンター(企画課内) (☎03・5466・0270) ✉jigyoku@kokugakuin.ac.jp

本学HP (<https://www.kokugakuin.ac.jp/general/eventlist/p1>)

図 書 館

◎卒業後も図書館を利用できます

卒業後も渋谷・たまプラーザ両キャンパスの図書館を利用(館内での閲覧、館外貸出、文献複写)できます。貸出冊数は和・洋書ともに5冊、日数は14日間です。遠方にお住まいの方で文献複写が必要な場合には、文書による申し込みも可能です。

図書館カウンターで申し込むと、翌年4月末まで有効の「図書館利用者カード」(両館で使用可)を発行します。

※カード発行には、運転免許証など現住所を確認できる身分証明書が必要です

☎図書館事務課 (☎03・5466・0159)

人 事 課

◎格安料金で自然を満喫 厚生寮をご利用ください

国学院大学では、卒業生に対して厚生寮を格安料金で開放しています。

▶ 叢隠寮(神奈川県箱根町)

叢隠寮は故折口信夫(釈道空)博士の別荘であった叢隠居を昭和33年に大学が譲り受け、これを保存するとともに宿泊施設を増築しました。寮には温泉水を利用した入浴施設があり、四季折々に変化する自然の中にある快適な保養所となっています=写真。



料1泊2食付き9000円(入湯税含む)

※チェックイン15時、チェックアウト10時

▶ 蓼科寮(長野県立科町)

蓼科高原にあり、夏は近くにある御泉水自然園の散策、冬はスキーと四季折々の自然を満喫できます。また、敷地内にはバーベキュー棟もあり、多人数で楽しめます。

料1泊2食付き4000円(冬期は暖房費を別途加算)

※チェックイン15時、チェックアウト10時

申いずれも利用日の1カ月前から人事課(☎03・5466・0105)で受け付けます。詳細は本学HPでご案内しています。

総 務 課

◎広くご寄付を募っています

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性ある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。本法人に対するご寄付は、専用用紙による申し込みとインターネット上でクレジットカード決済による申し込みが可能です。

募集するご寄付の種類は、「学生・生徒等の奨学金」「学生・生徒等の活動支援」に加え、学生の課外活動を支援するために役立てられる「課外活動支援(スポーツ強化部会など)」や「メッセージ募金」を設けています。「メッセージ募金」は、本学における諸活動、特に在学生が取り組むスポーツや課外活動に向けて、寄付専用サイトからメッセージを投稿してもらう仕組みです。ワンコイン(500円)からご寄付が可能です。メッセージはそのままサイトに公開されます(匿名可)。ぜひ後輩にエールをお寄せください。

各種募金に関する情報は、寄付専用サイト(<https://kifu.kokugakuin.ac.jp/>)で閲覧できます。

◎税制上の優遇措置

本法人への指定寄付金は、次の通り税制の優遇措置を受けることができます。

個人=個人所得税については、特定公益増進法人への

寄付金としての「所得控除」、または一定要件を満たした学校法人などへの寄付金としての「税額控除」のうち、いずれかの税制を寄付者が選択し、確定申告を行うことで所得税が減免されます。なお、多くの場合「税額控除」を選択すると減免が大きくなります。個人住民税については、お住まいの自治体が条例により本法人への寄付を税額控除の対象と指定している場合に限り、確定申告を行うことで住民税が減免されます。

法人=特定公益増進法人に対する寄付金として扱われ、所定の計算式に基づく限度額まで該当事業年度の損金に算入することができます。寄付金の申し込みと納付が確認できましたら、本法人発行の領収書と文部科学省発行の証明書をお送りしますので、確定申告などの税務手続きを行ってください。

◎受取者指定寄付金

日本私立学校振興・共済事業団が取り扱う制度で、この制度を利用して私立学校へ寄付をした企業等法人は、法人税法上、支出した寄付金の全額を損金の額に算入することが認められています。

◎遺贈による寄付制度

「遺贈による寄付」とは、院友・在学生の父母・教職員・一般篤志家が保有されている資産の一部を、将来遺贈の形で寄付していただき、本法人の教育研究活動のより一層の充実発展のために支援をいただく制度です。

本法人では、この制度を実施するにあたり、三井住友信託銀行・三菱UFJ信託銀行と協定を締結しています。本制度の利用を希望される場合は、総務課または最寄りの協定金融機関までご一報ください。

☎総務課寄付金担当 (☎03・5466・0111)

入 学 課

◎院友子弟等特別選考のご案内

国学院大学では、院友の子弟らを対象とした「院友子弟等特別選考」を実施しています。

本選考は、本学の学部、大学院、専攻科、別科などを卒業・修了された方の2親等以内の親族(配偶者、姻族を含む)であることが出願資格の一つとなります。その他の出願資格の詳細は、毎年5月下旬ごろに発行する「入学案内」に掲載しています。本学HP(<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/documentrequest>)からご請求ください。本学への進学を希望する親族の方がいらっしゃいましたら、本選考をご案内ください。

☎入学課 (☎03・5466・0141)

国 学 院 大 学 生 協

◎卒業アルバムの購入受け付け中

大学生協では現在、卒業アルバムの購入を受け付け中です。先にお送りした郵便振替用紙(渋谷・たまプラーザ店舗でも配布中)か郵便局備え付けの郵便振替用紙をご利用いただき、通信欄に、学部・学科・学籍番号・郵送先住所を明記の上、郵便局の窓口でお振り込みください。5月8日(金)までお振り込みを受け付け、11月ごろの発送になります。

※ご父母の方などが購入された場合、「卒業生本人が写っていない」と連絡が寄せられることがあります。写真撮影をされているか確認した上でお申し込みください

料1万4800円(消費税・送料込み)

申振込先(加入者名)・口座番号=国学院大学生協同組合・00150-6-501528

◎オリジナルスイーツや人気グッズはいかが?

大学生協では、オリジナルスイーツの「国学院どらやき」(1900円)とコロンパンとの企画による「国学院クッキー」(19枚入り) 左から、国学院どらやき、1800円、33枚入り2950円)「こくびよん」グッズ、国学院クッキー
した大学マスコット「こくびよん」グッズ、Tシャツやキャップなどの本学オリジナルグッズを販売しています。配送も承っています。



☎国学院大学生協同組合 (☎03・5466・0169または<https://www.kgucoop.or.jp>)